

第5学年2組 音楽科学習指導案

1 題材名 いろいろな音のひびきを味わおう

2 題材について

本題材は、小学校学習指導要領解説音楽編 A 表現（1）歌唱 イ「歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」、エ「各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」、（2）器楽 イ「曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。」、エ「各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。」、（3）音楽づくり ア「いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。」、B 鑑賞 ア「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」に関連している。本題材では、音や旋律が重なり合う響きを感じ取りながら、より美しい音楽表現をどのように作るかについて工夫することをねらいとしている。

本学級の児童は音楽への学習意欲が高い。教師の投げかけに素直に反応し、一人一人が声を出し、美しい歌声で歌おうとする意欲が見られる。その一方で、主旋律と副旋律で分かれる曲では、主旋律と副旋律の音量のバランスを考えずに歌ってしまったり、歌詞の意味を考えずに歌ってしまったり、強弱記号に注意せずに歌ってしまったりなど、歌唱表現の工夫をあまり意識していない様子が見られた。

本題材では、旋律の重なり方の違い、歌詞の意味、強弱に注目して、歌唱表現の工夫を行う。そこでは、実際に歌いながら考えたり、話し合ったりして歌唱の工夫を考えていく。また、考えた歌唱の工夫を拡大した楽譜やホワイトボードに書くことによって、表現工夫の共用化を図る。

3 題材の目標

○音や旋律が重なり合う響きを感じ取って合唱したり聴いたりするようにする。

○音が組み合わさる響き、音楽の仕組みを生かして、音楽を作ったり合唱したりするようにする。

4 教材の選択 （◎は本時で扱う教材）

◎「いつでもあの海は」（歌唱）作詞 佐田和夫 作曲 長谷部匡俊

穏やかな海を想像させられるようななだらかな旋律である。大きく分けて三つの部分に分かれており、全員で歌う部分、二つの旋律が異なるリズムで重なる部分、二つの旋律が同じリズムで重なる部分に分けられる。旋律の重なり方の違いを生かして合唱するのに適している教材と言える。

○「小さな約束」（器楽）作曲 佐井孝彰

イ短調の響きが印象的なリコーダー合奏の教材である。互いの音を聴き合いながら演奏することに適している教材と言える。

○「リボンのおどり（ラ バンバ）」（器楽）日本語詞 芙龍明子 編曲 原由多加

いろいろな楽器を使うことができる、もとはメキシコ民謡である教材である。いろいろな楽器

の音が重なり合う響きを楽しみながら演奏をすることに適した教材と言える。

○「リズムを選んでアンサンブル」（音楽づくり）

三人組になってリズムアンサンブルを作る教材である。三人がそれぞれ異なる三つの楽器を受け持ち、さらにリズムを選ぶことによって自分たちのリズムアンサンブルを作る。

○「アイネ クライネ ナハトムジーク 第一楽章」（鑑賞）作曲 モーツァルト

バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスの弦楽器による弦楽合奏の曲である。旋律が様々な重なり方をしていることに気づき、音が重なり合う響きを味わうことに適した教材である。

5 本題材で主に扱う〔共通事項〕と学習の関わり

〔共通教材〕ア	旋律	音の重なり	音色	強弱
〔共通教材〕イ				mp～f
主な学習活動	・音や旋律が重なり合う響きを感じ取って聴く。	・音や旋律が重なり合う響きを聴き取り、より美しい音楽表現ができるように工夫をする。	・音色が組み合わさる響き、音楽の仕組みを生かして学習に取り組む。	・強弱記号を基に、表現を工夫する。

6 題材の指導計画（12時間扱い）

- ・「小さな約束」を演奏する。・・・2時間
- ・「いつでもあの海は」を歌詞唱する。・・・2時間（本時2/2）
- ・「リボンのおどり（ラ バンバ）」を演奏する。・・・3時間
- ・「アイネ クライネ ナハトムジーク第一楽章」を鑑賞する。・・・1時間
- ・「リズムを選んでアンサンブル」で、リズムアンサンブルを作る。・・・4時間

7 指導と評価の計画

（1）目標

○音や旋律が重なり合う響きを聴き取り、より美しい音楽表現をどのように作るかについて思いや意図をもてるようにする。

（2）本時で主に扱う〔共通事項〕ア 旋律 音の重なり 強弱／イ mp～f

（3）展開（2/2時）

学習内容・学習活動	内は学習活動に即した評価規準 指導上の留意点（・） 評価方法【 】	時間
-----------	---	----

1 学習の雰囲気をつくる。 ・「いつでもあの海は」を二部合唱する。	・和やかな雰囲気づくりをするために、気持ちよく声を出して歌うようにする。 ・音程を思い出すために、音程が不安定な箇所は、ピアノで音を取りながら音程を確認する。 ・半分の人数ずつで、主旋律と副旋律に分かれて歌う。	8'
2 旋律の重なり方に合った歌い方の工夫を考える。 ・イ、ウはそれぞれどんな旋律の重なり方をしているか考える。 C: イは追いかけてこするようになっています。 C: ウは同じリズムだけど、音が違います。 ・ア、イ、ウのそれぞれにふさわしい歌い方の工夫を考え、発表する。 C: アは全員が一つになって歌いたいです。 C: イは互いに呼びかけ合うように歌いたいです。 C: ウは互いの歌声をしっかりと聴き合いながら歌いたいです。 ・旋律の違いによる歌い方の工夫に気を付けながら二部合唱する。	・楽譜の拡大コピーを掲示して、みんなで旋律の重なり方の違いを考えられるようにする。 ・発表した旋律の重なり方はそれぞれ、イは「かけ合い」、ウは「重なり」という言葉で表されるということにつなげる。 ・児童の考えた歌い方の工夫をホワイトボードに書く。 ・旋律の重なり方の特徴を基にして考えたことか確かめながら書く。 ・考えたことを意識して歌えるように、書き込んだ歌い方を見ながら歌うよう促す。 ・児童を2:1の人数に分けて二部合唱する。この時、上の段と下の段、どちらの人数が多い方がよいのか問いかけ、その理由も問うことで、主旋律の音量を大きくするべきだということに気付けるようにする。	10'
3 歌詞の内容と強弱記号にも注目した歌い方の工夫を考える。 ・強弱記号に注目して考える。 C: イはフォルテだから、イは盛り上げさせたいです。 C: 最後はメゾピアノなので、最後は少し弱くして大切に歌いたいです。	・拡大した楽譜の強弱記号に印をつけ、旋律の違いによる歌い方と合わせて、強弱記号も考えた歌い方の工夫を考えられるようにする。 ・児童の考えた歌い方の工夫を拡大した楽譜に書き込んでいく。	25'

・歌詞の内容に注目して、どんな海の様子をイメージして歌いたいか話し合う。 C:アでは、自分のことを励ましてくれる海のことを思い出して優しい気持ちになっているイメージで歌いたいです。 C:イのところは、波についての歌詞なので、波をイメージしながら、「激しく」では力強く、「やさしく」では優しく歌いたいです。 C:ウでは大空に海の音が響いていることをイメージしてのびのびと歌いたいです。 ・旋律の重なり方の歌い方の工夫と、話し合った海の様子を意識して二部合唱する。 4 本時の学習を振り返る	・周りの人と話し合ってから、ア、イ、ウそれぞれどんなイメージをもって歌いたいか発表するようにする。 ・イではなだらかに歌うことにつなげる。 ○音楽活動の創意工夫【発言や歌唱の聴取】 音や旋律が重なり合う響きを聴き取り、それらが生み出す良さや面白さなどを感じ取りながら、より美しい音楽表現ができるように、旋律の重なり方にふさわしい歌い方を考え、思いや意図をもっている。 ・ア、イ、ウそれぞれ発表した歌い方の工夫をまとめ、このクラスでの歌い方の工夫を方向付ける。 ・ホワイトボードと拡大した楽譜に書いた歌い方の工夫を意識して歌えるよう助言する。 ・考えた歌い方をきちんと表現することができたか確認する。 ・重なり方の違いを生かした表現の工夫ができるようになったことを賞賛する。 ・今後他の曲でも歌声が重なり合うことを楽しみ、どのような歌い方がふさわしいか考えながら合唱していくよう伝える。	2'
---	--	-----------

いつでもあの海は

名前

☆**歌詞の内容**と**強弱記号**に注目して、

どんな海の様子を表して歌いたいかなそれぞれ考えよう！

ア

イ

ウ